

「環境問題に関する世論調査」の概要

平成24年8月
内閣府政府広報室

- 調査対象 全国20歳以上の者 3,000人
有効回収数 1,912人(回収率63.7%)
調査期間 平成24年6月7日～6月17日(調査員による個別面接聴取)
- 調査目的 環境問題に関する国民の意識を調査し、今後の施策の参考とする。
- 調査項目 1 循環型社会に関する意識について
2 自然共生社会に関する意識について
- 調査実績 「環境問題に関する世論調査」
平成21年6月(標本数 全国20歳以上 3,000人 有効回収数 1,919人)
平成17年9月(標本数 全国20歳以上 3,000人 有効回収数 1,896人)
「自然の保護と利用に関する世論調査」
平成18年6月(標本数 全国20歳以上 3,000人 有効回収数 1,834人)
平成13年5月(標本数 全国20歳以上 3,000人 有効回収数 2,072人)
平成8年11月(標本数 全国20歳以上 5,000人 有効回収数 3,493人)
平成3年6月(標本数 全国20歳以上 3,000人 有効回収数 2,253人)
「循環型社会の形成に関する世論調査」
平成13年7月(標本数 全国20歳以上 5,000人 有効回収数 3,476人)
- その他 本調査の概要は、内閣府ホームページに8月6日(月)より掲載する予定です。
<http://www8.cao.go.jp/survey/h24/h24-kankyoku/index.html>

(本件の連絡先)

内閣府 大臣官房政府広報室 連絡担当者：渡 部

03-5253-2111(代表)(内線 82780)

03-3581-0070(直通)

【循環型社会関連】環境省 大臣官房廃棄物・リサイクル対策部企画課循環型社会推進室

連絡担当者：皆 川

03-3581-3351(代表)(内線 6818)

03-5521-8336(直通)

【自然共生社会関連】環境省 自然環境局自然環境計画課生物多様性施策推進室

連絡担当者：山 下

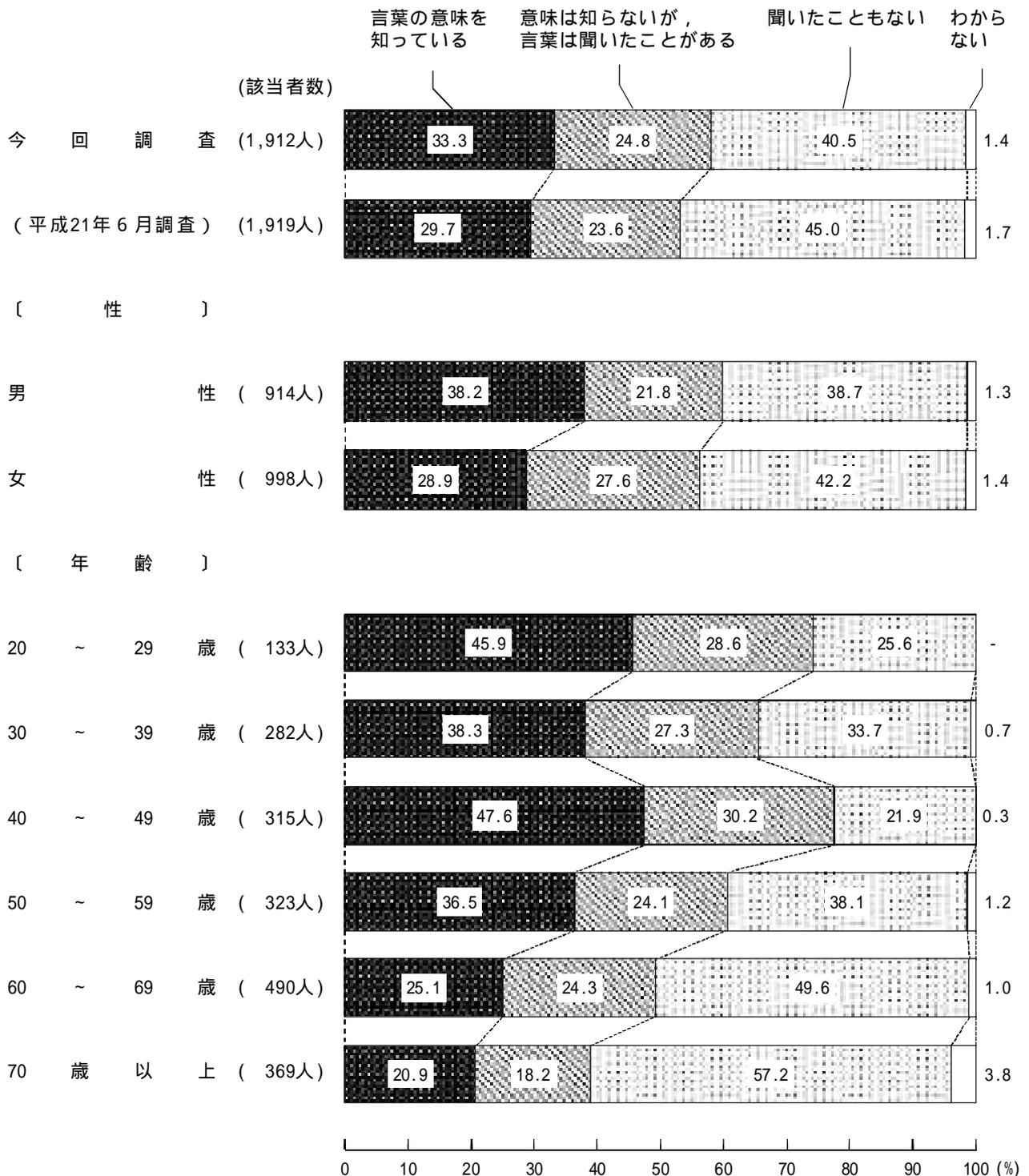
03-3581-3351(代表)(内線 6977)

03-5521-8150(直通)

1 循環型社会に関する意識について

(1) 3Rの言葉の認知度

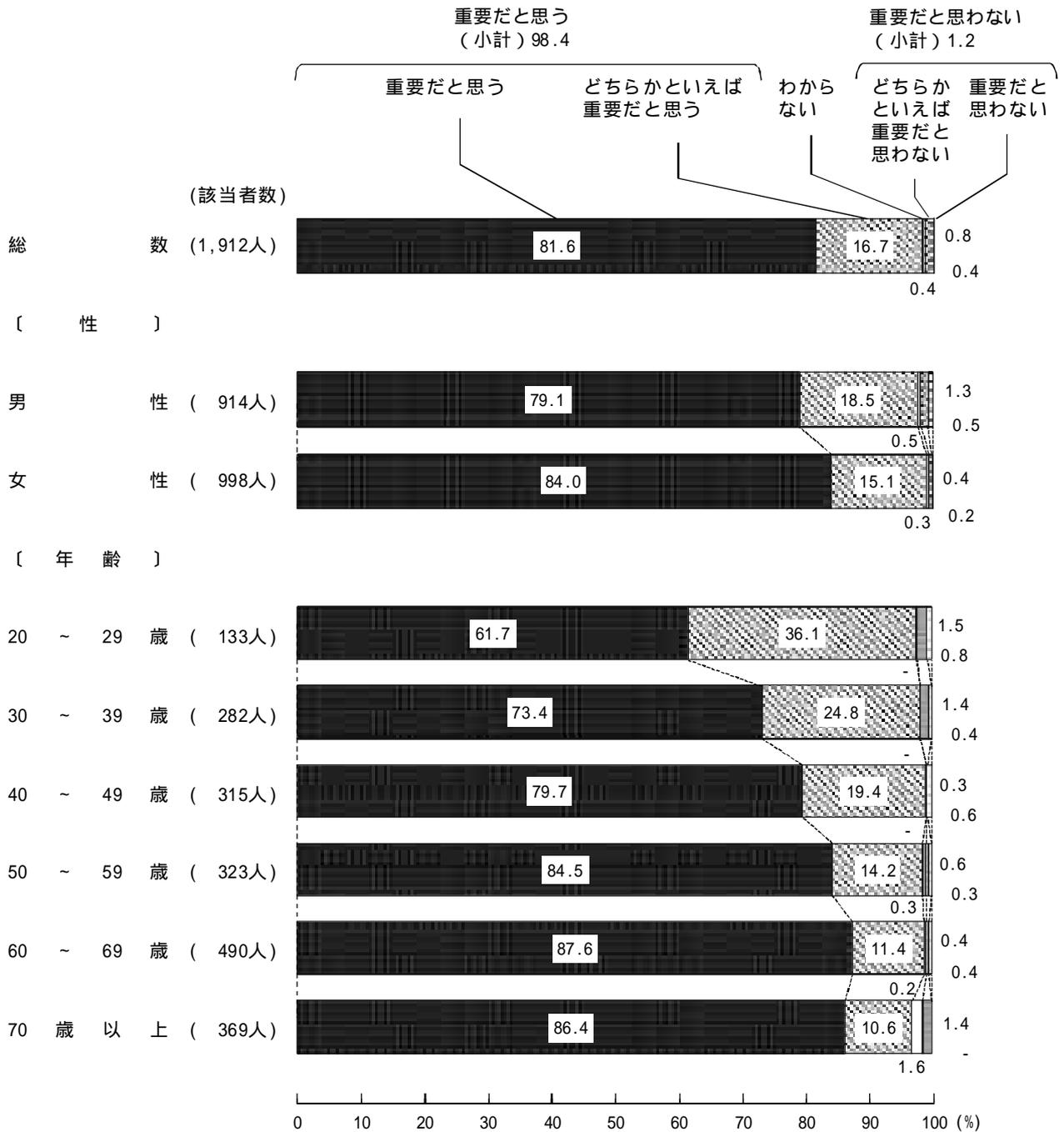
	平成21年6月	平成24年6月
・言葉の意味を知っている	29.7%	33.3% (増)
・意味は知らないが、言葉は聞いたことがある	23.6%	24.8%
・聞いたこともない	45.0%	40.5% (減)



(2) ごみの問題に対する重要度

平成 24 年 6 月

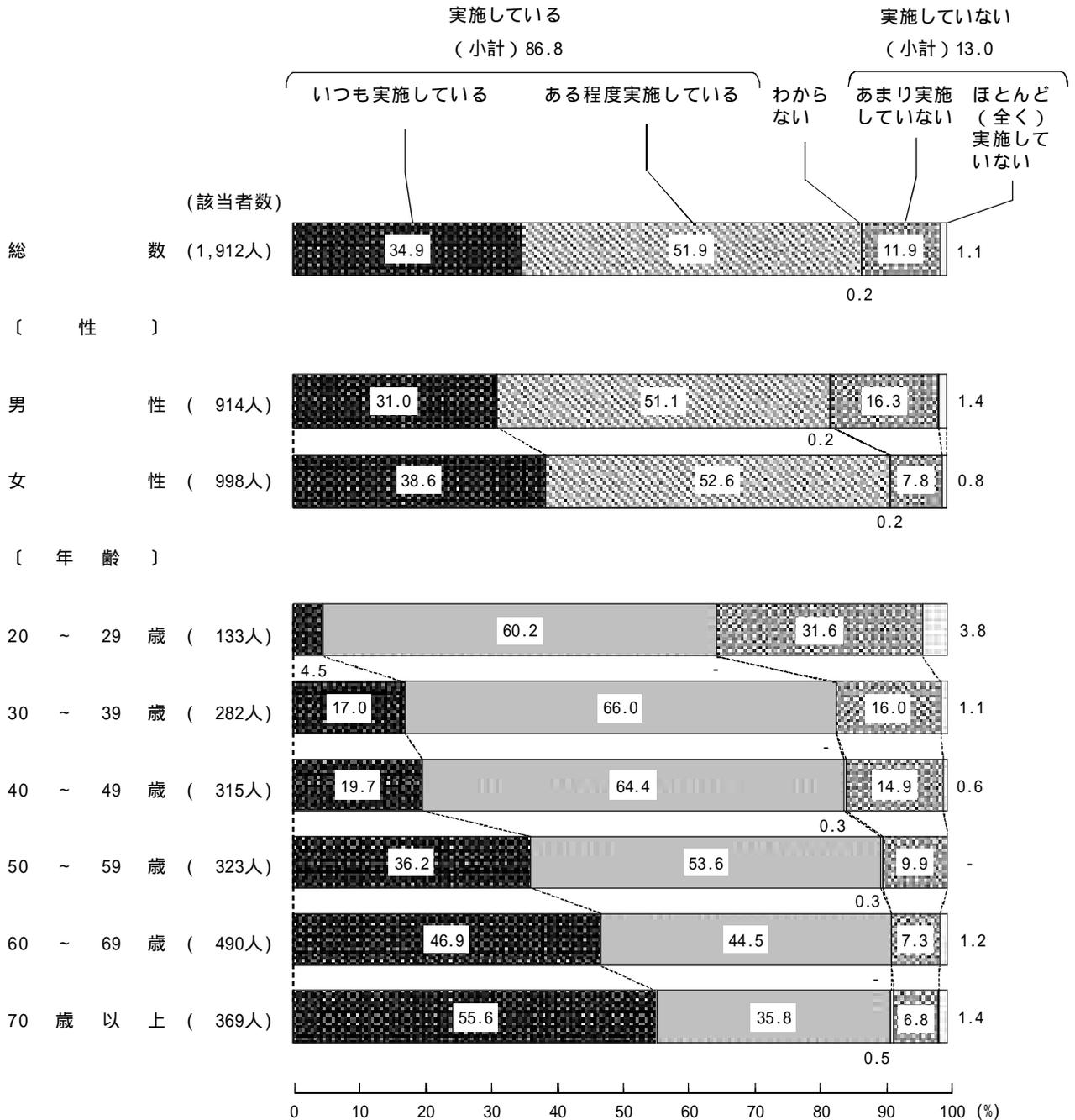
・重要だと思う(小計)	98.4%
・重要だと思う	81.6%
・どちらかといえば重要だと思う	16.7%
・重要だと思わない(小計)	1.2%
・どちらかといえば重要だと思わない	0.8%
・重要だと思わない	0.4%



(3) ごみを少なくする配慮やリサイクルの実施

平成 24 年 6 月

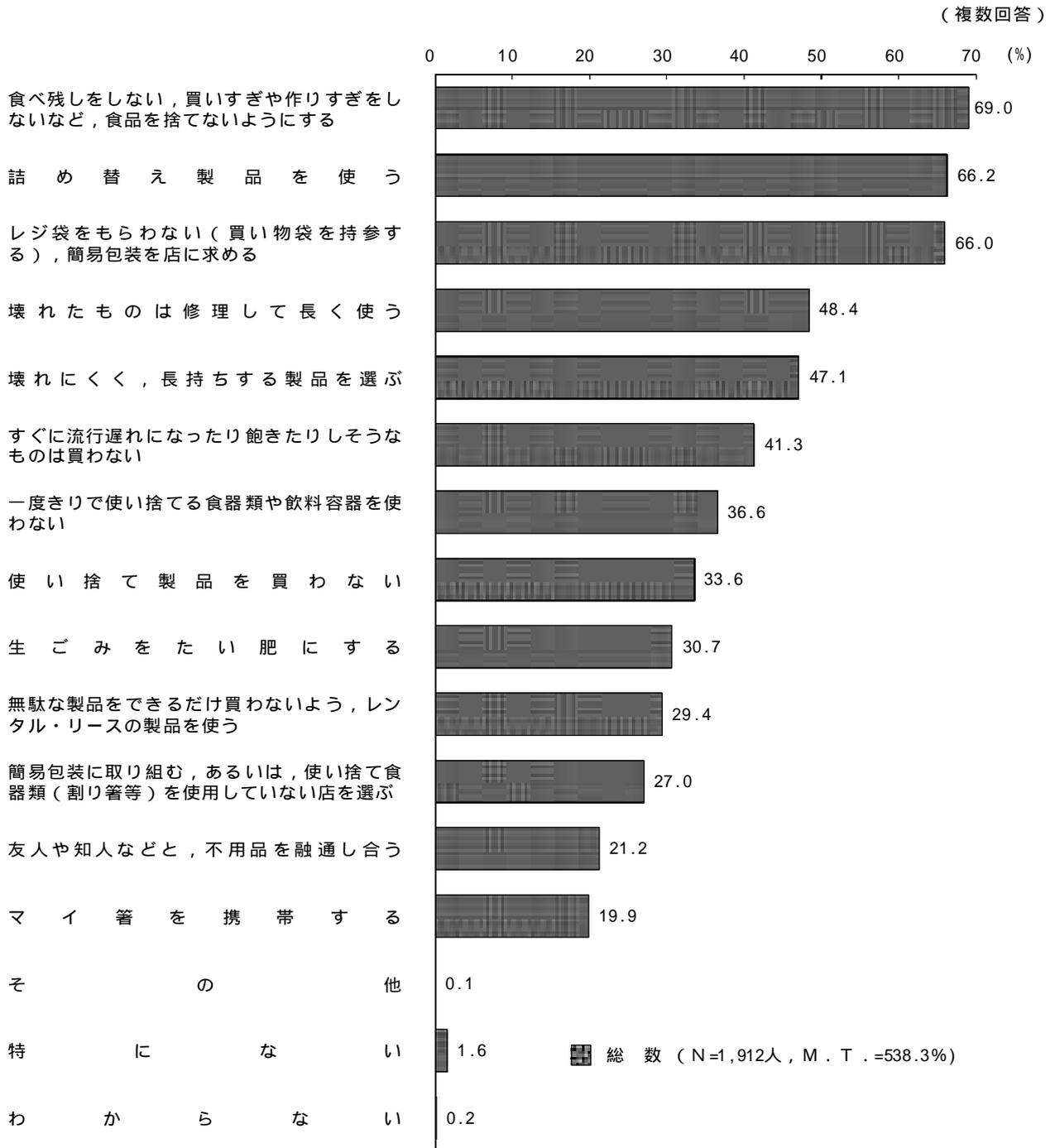
・実施している (小計)	86.8%
・いつも実施している	34.9%
・ある程度実施している	51.9%
・実施していない (小計)	13.0%
・あまり実施していない	11.9%
・ほとんど (全く) 実施していない	1.1%



(4) ごみを少なくするための心がけ

(複数回答, 上位5項目)
平成24年6月

- ・ 食べ残しをしない, 買いすぎや作りすぎをしないなど, 食品を捨てないようにする。 69.0%
- ・ 詰め替え製品を使う 66.2%
- ・ レジ袋をもらわない(買い物袋を持参する), 簡易包装を店に求める 66.0%
- ・ 壊れたものは修理して長く使う 48.4%
- ・ 壊れにくく, 長持ちする製品を選ぶ 47.1%



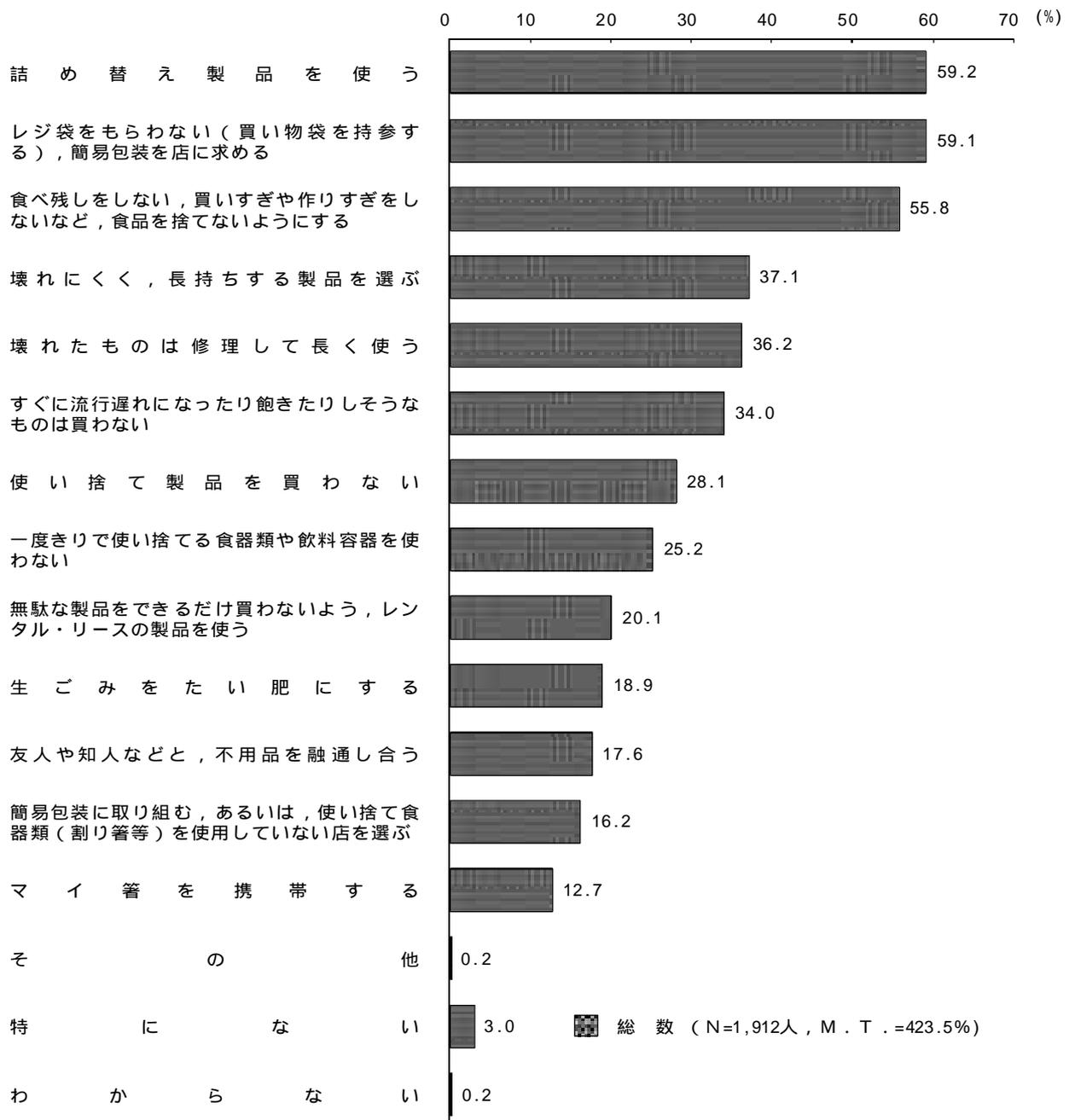
(5) ごみを少なくするために行っていること

(複数回答 , 上位 6 項目)

平成 24 年 6 月

・ 詰め替え製品を使う	59.2%
・ レジ袋をもらわない (買い物袋を持参する) , 簡易包装を店に求める	59.1%
・ 食べ残しをしない , 買いすぎや作りすぎをしないなど食品を捨てないようにする	55.8%
・ 壊れにくく , 長持ちする製品を選ぶ	37.1%
・ 壊れたものは修理して長く使う	36.2%
・ すぐに流行遅れになったり飽きたりしそうなものは買わない	34.0%

(複数回答)

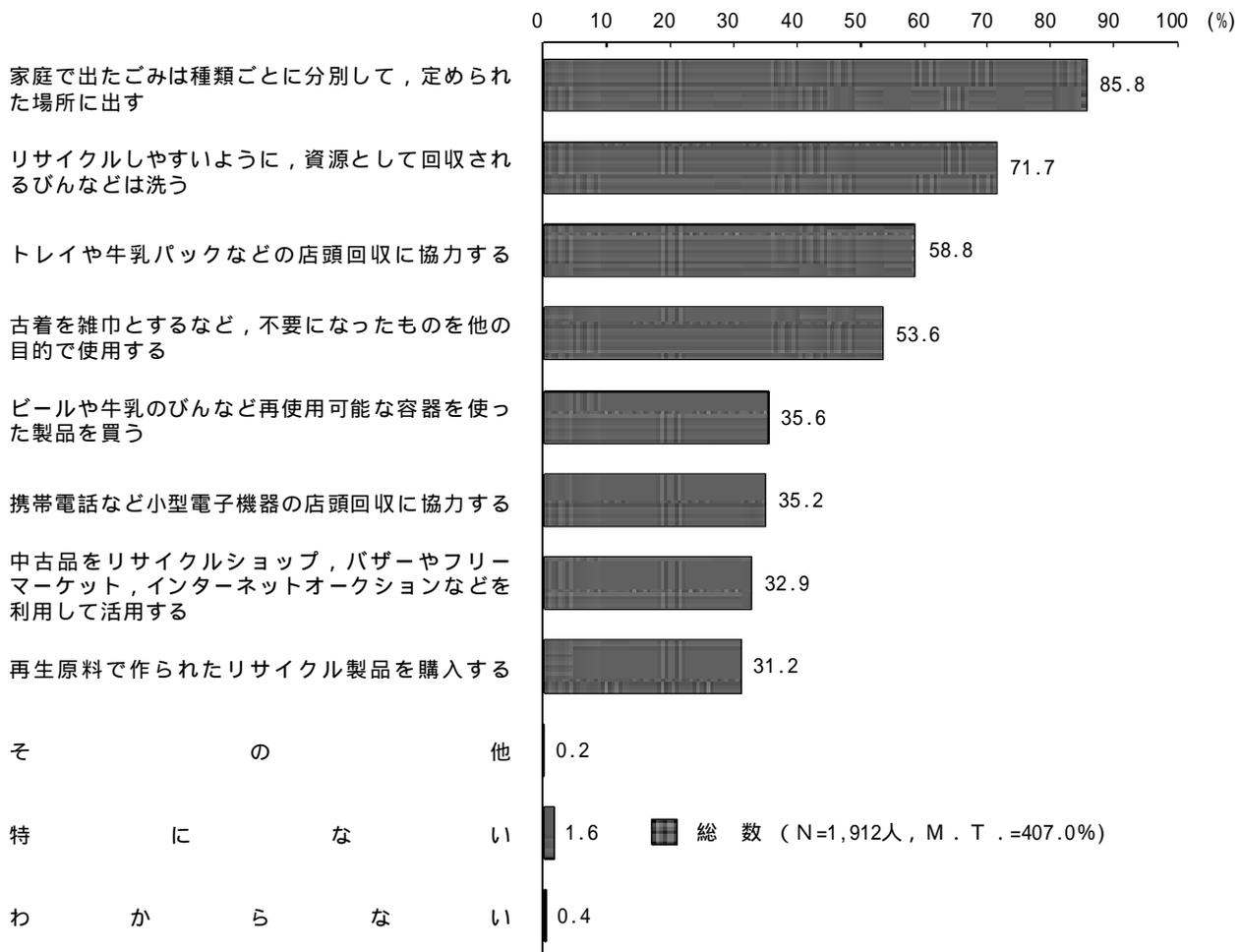


(6) 再使用や再生利用のための心がけ

(複数回答 , 上位 4 項目)
平成 24 年 6 月

- ・ 家庭で出たごみは種類ごとに分別して , 定められた場所に出す 85.8%
- ・ リサイクルしやすいように , 資源として回収されるびんなどは洗う 71.7%
- ・ トレイや牛乳パックなどの店頭回収に協力する 58.8%
- ・ 古着を雑巾とするなど , 不要になったものを他の目的で使用する 53.6%

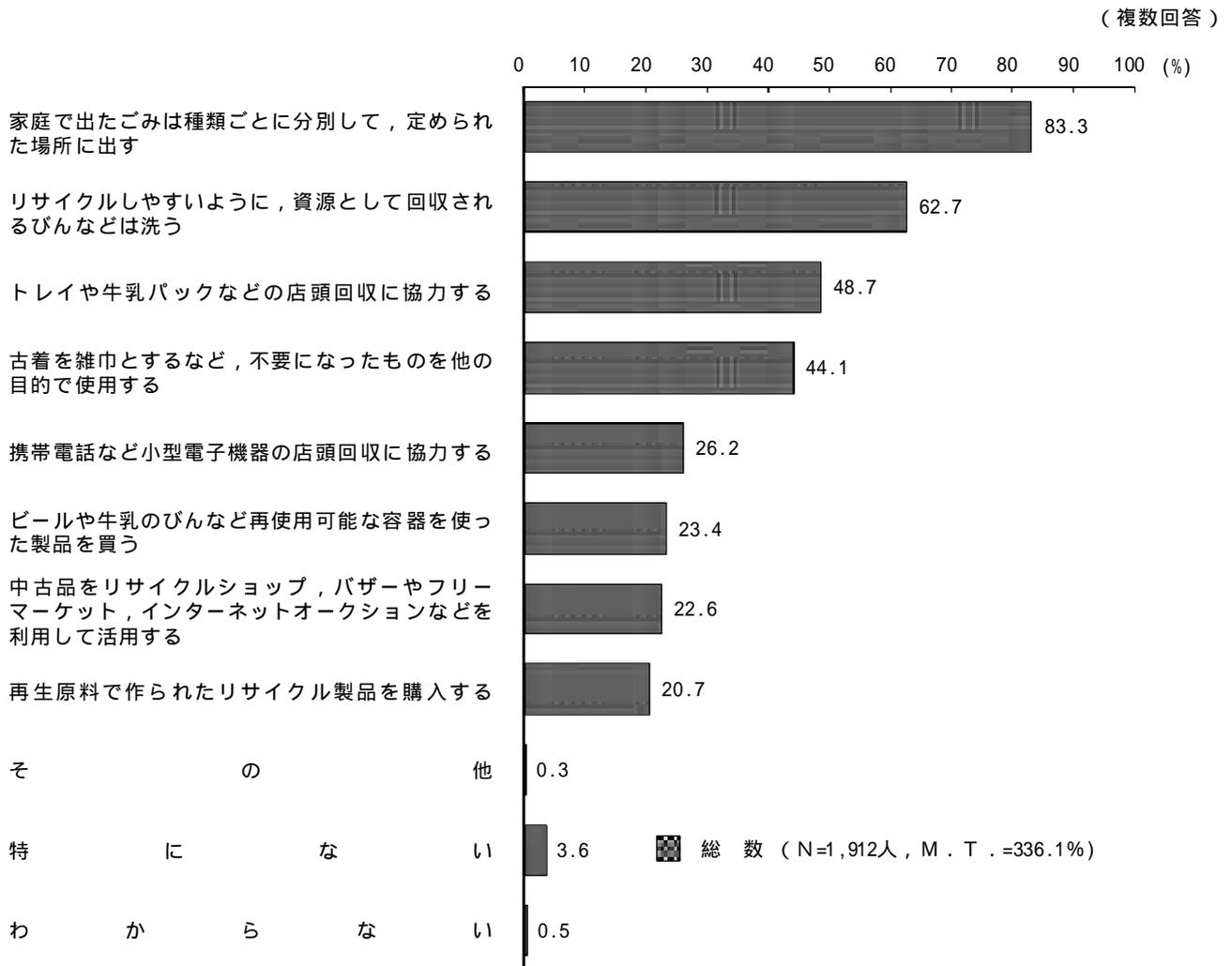
(複数回答)



(7) 再使用や再生利用のために行っていること

(複数回答 , 上位 4 項目)
平成 24 年 6 月

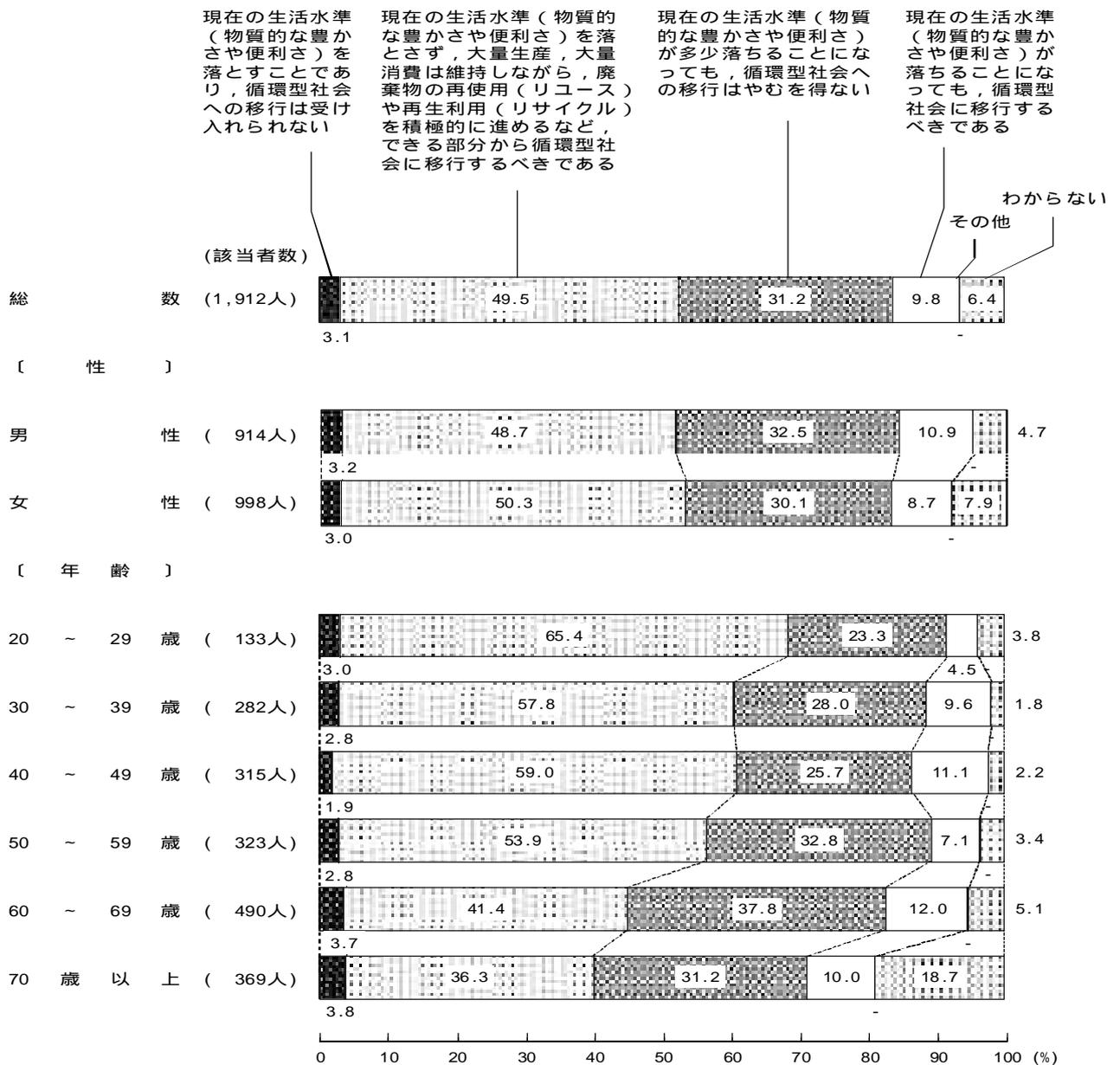
- ・ 家庭で出たごみは種類ごとに分別して , 定められた場所に出す 83.3%
- ・ リサイクルしやすいように , 資源として回収されるびんなどは洗う 62.7%
- ・ トレイや牛乳パックなどの店頭回収に協力する 48.7%
- ・ 古着を雑巾とするなど , 不要になったものを他の目的で使用する 44.1%



(8) 循環型社会の形成についての意識

平成 24 年 6 月

- ・現在の生活水準（物質的な豊かさや便利さ）を落とすこと
であり，循環型社会への移行は受け入れられない 3.1%
- ・現在の生活水準（物質的な豊かさや便利さ）を落とさず，
大量生産，大量消費は維持しながら，廃棄物の再使用（リ
ユース）や再生利用（リサイクル）を積極的に進めるなど，
できる部分から循環型社会に移行するべきである 49.5%
- ・現在の生活水準（物質的な豊かさや便利さ）が多少落ちる
ことになっても，循環型社会への移行はやむを得ない 31.2%
- ・現在の生活水準（物質的な豊かさや便利さ）が落ちること
になっても，循環型社会に移行するべきである 9.8%

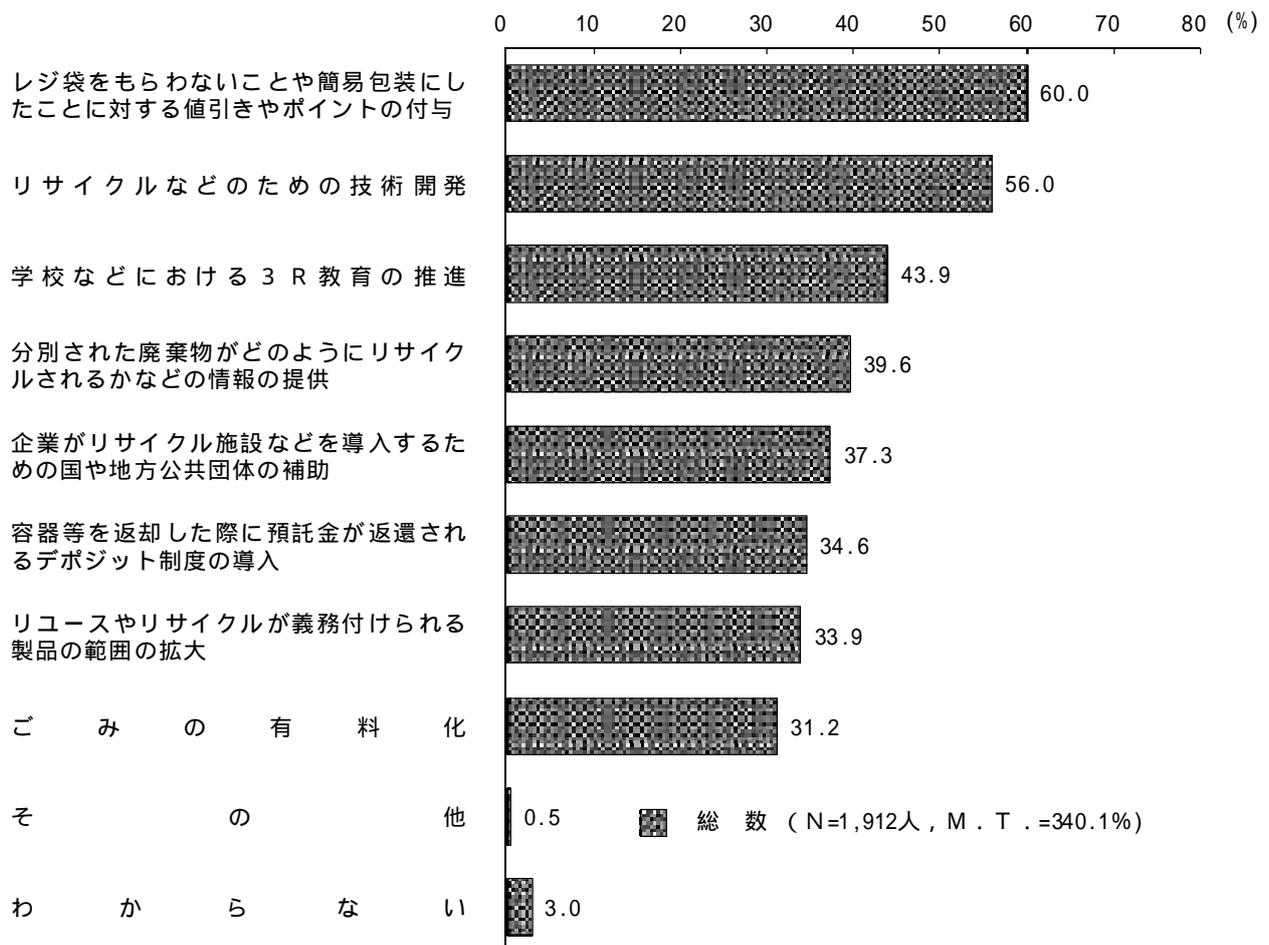


(9) 3 Rの推進に対する必要性

(複数回答 , 上位 3 項目)
平成 24 年 6 月

- ・レジ袋をもらわないことや簡易包装にしたことに対する
値引きやポイントの付与 60.0%
- ・リサイクルなどのための技術開発 56.0%
- ・学校などにおける 3 R 教育の推進 43.9%

(複数回答)



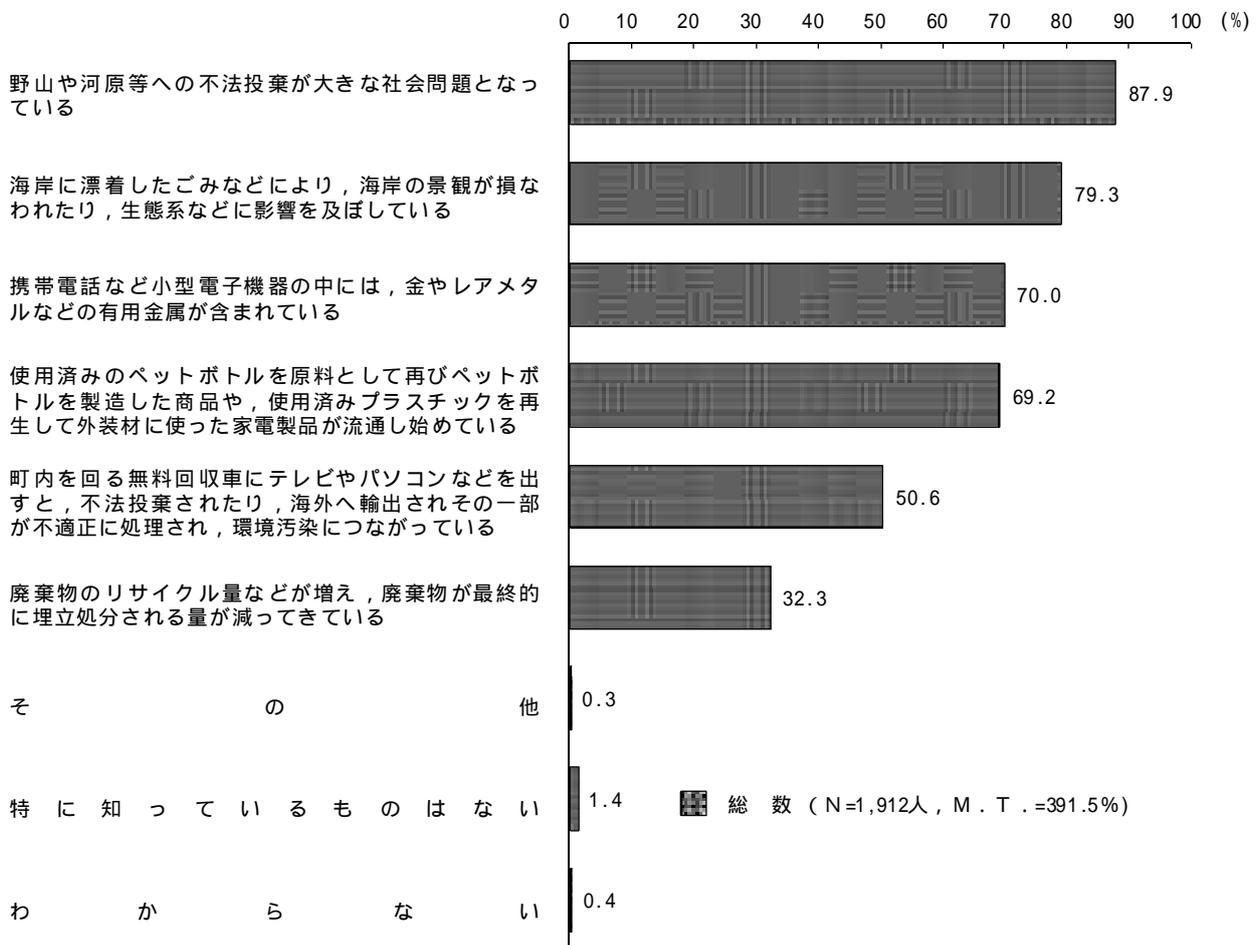
(1 0) ごみの問題の具体的な認知度

(複数回答 , 上位 4 項目)

平成 24 年 6 月

- ・ 野山や河原等への不法投棄が大きな社会問題となっている 87.9%
- ・ 海岸に漂着したごみなどにより , 海岸の景観が損なわれたり , 生態系などに影響を及ぼしている 79.3%
- ・ 携帯電話などの小型電子機器の中には , 金やレアメタルなどの有用金属が含まれている 70.0%
- ・ 使用済みのペットボトルを原料として再びペットボトルを製造した商品や , 使用済みプラスチックを再生して外装材に使った家電製品が流通し始めている 69.2%

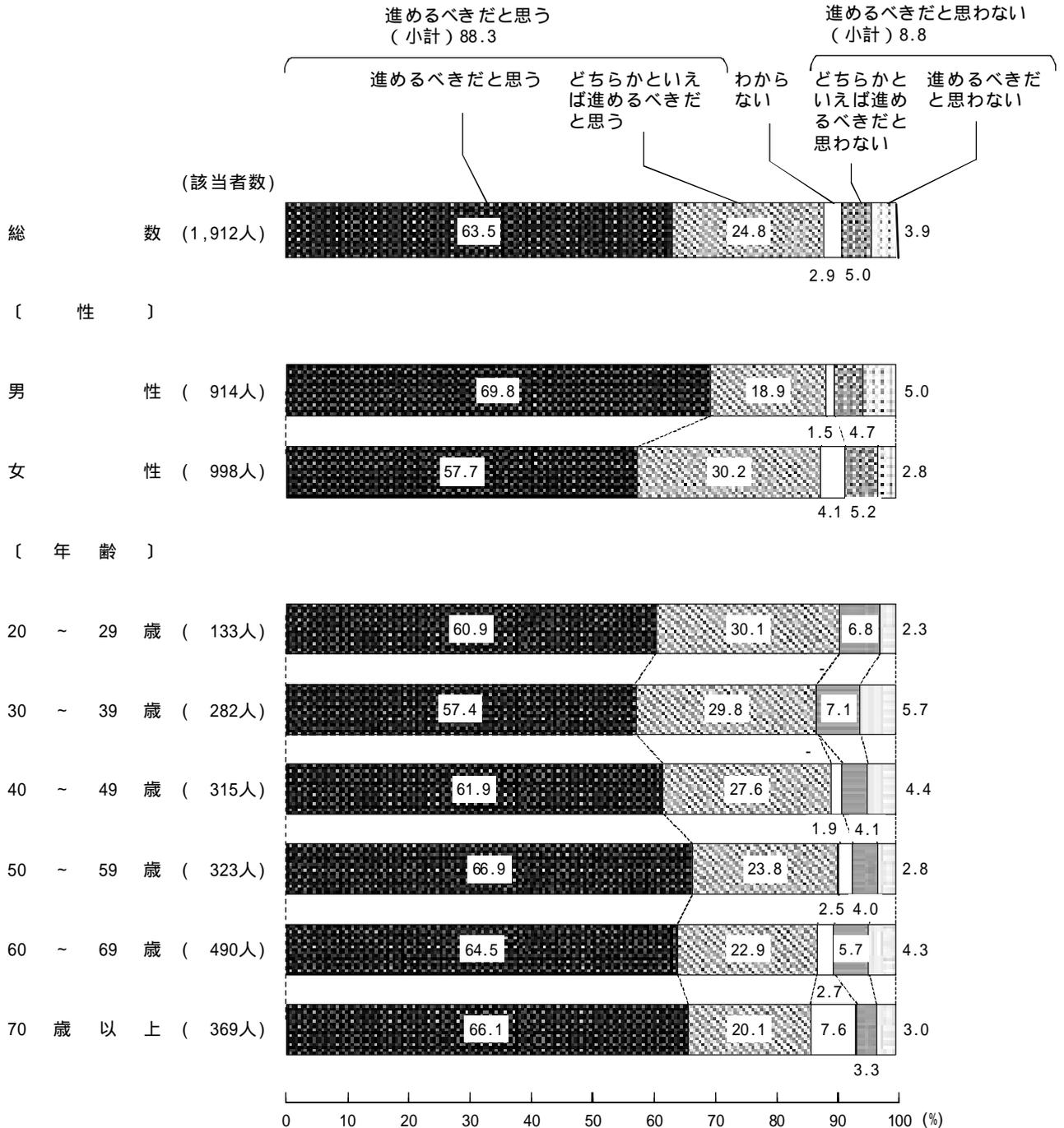
(複数回答)



(1 1) 災害廃棄物の広域処理に対する意識

平成 24 年 6 月

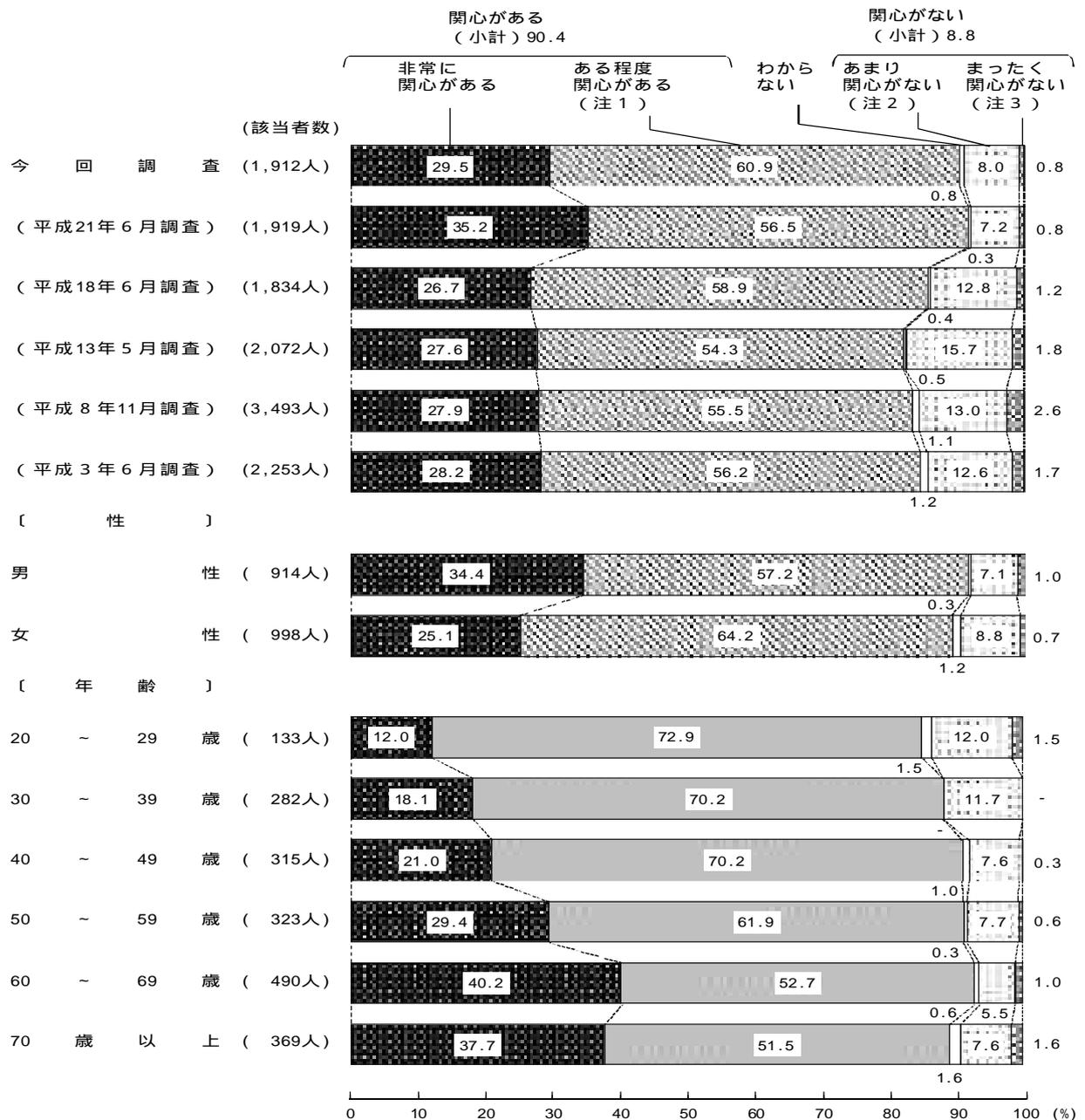
- ・進めるべきだと思う (小計) 88.3%
 - ・進めるべきだと思う 63.5%
 - ・どちらかといえば進めるべきだと思う 24.8%
- ・進めるべきだと思わない (小計) 8.8%
 - ・どちらかといえば進めるべきだと思わない 5.0%
 - ・進めるべきだと思わない 3.9%



2 自然共生社会に関する意識について

(1) 自然に対する関心

	平成21年6月	平成24年6月
・関心がある(小計)	91.7%	90.4%
・非常に関心がある	35.2%	29.5% (減)
・ある程度関心がある	56.5%	60.9% (増)
・関心がない(小計)	8.0%	8.8%
・あまり関心がない	7.2%	8.0%
・まったく関心がない	0.8%	0.8%



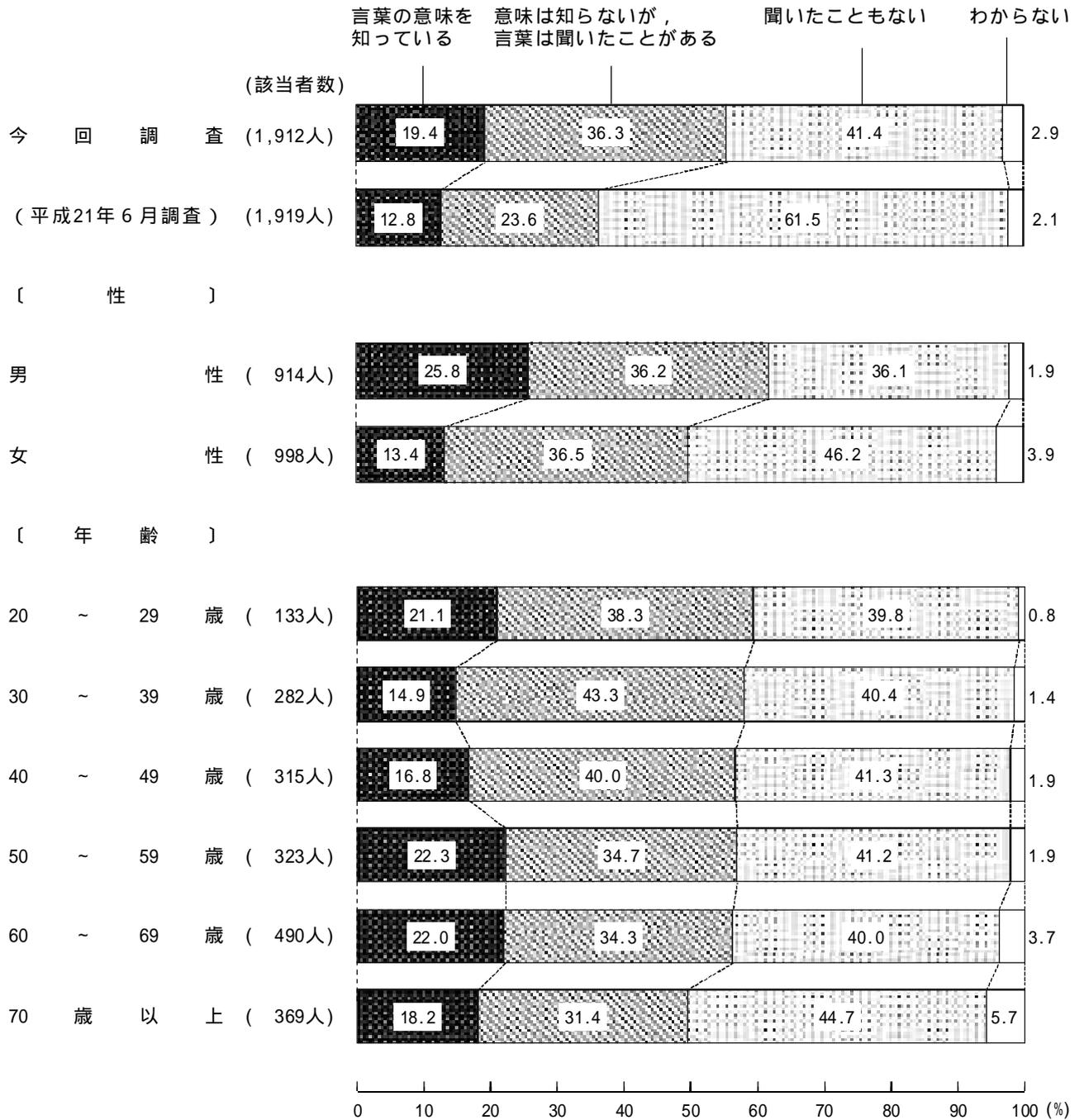
(注1) 平成18年6月調査までは、「どちらかといえば関心がある」となっている。

(注2) 平成8年11月調査までは、「どちらかといえば関心がない」となっている。

(注3) 平成18年6月調査までは、「全然(全く)関心がない」となっている。

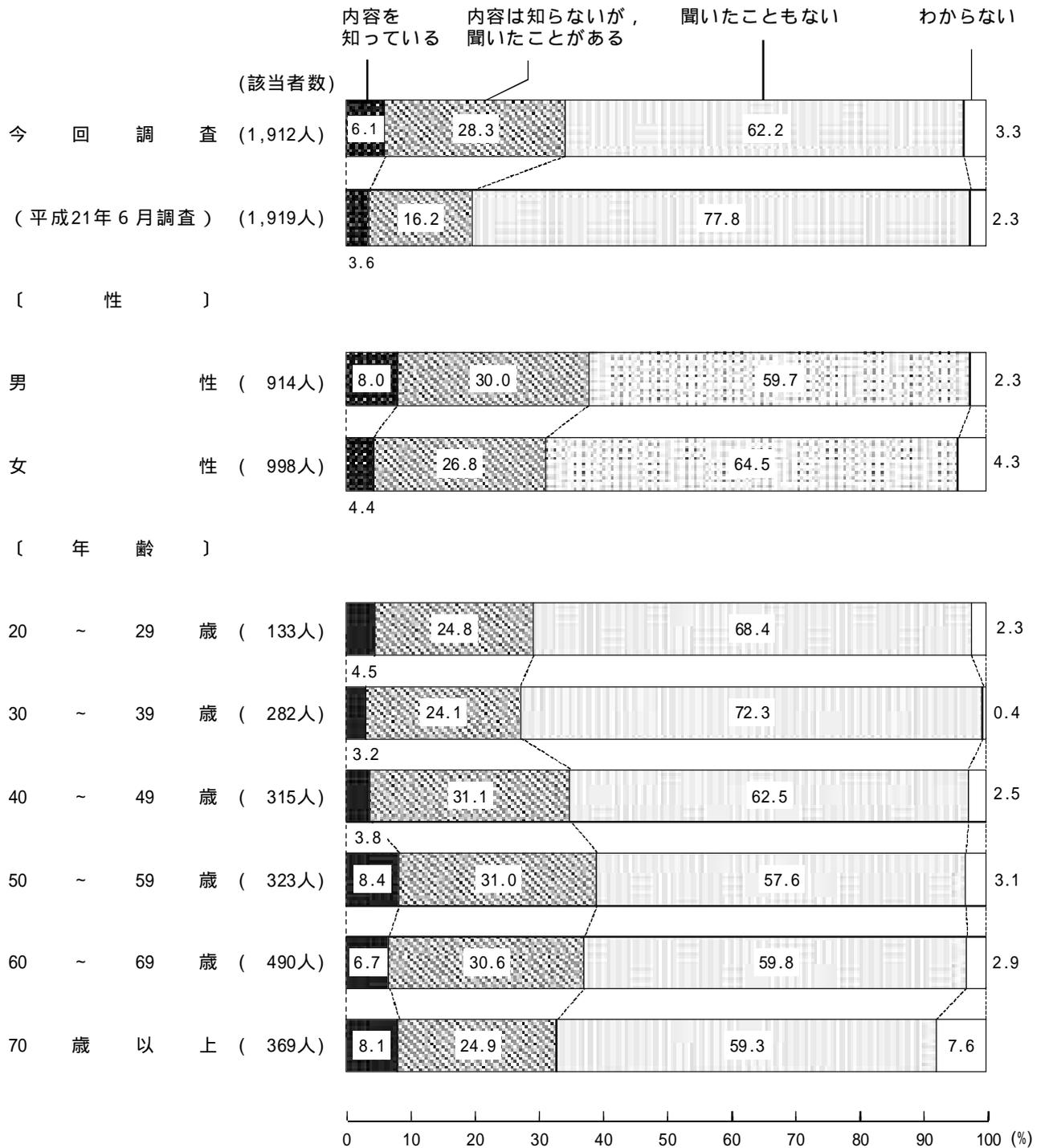
(2) 生物多様性の言葉の認知度

	平成 21 年 6 月	平成 24 年 6 月
・言葉の意味を知っている	12.8%	19.4% (増)
・意味は知らないが、言葉は聞いたことがある	23.6%	36.3% (増)
・聞いたこともない	61.5%	41.4% (減)



(3) 生物多様性国家戦略の認知度

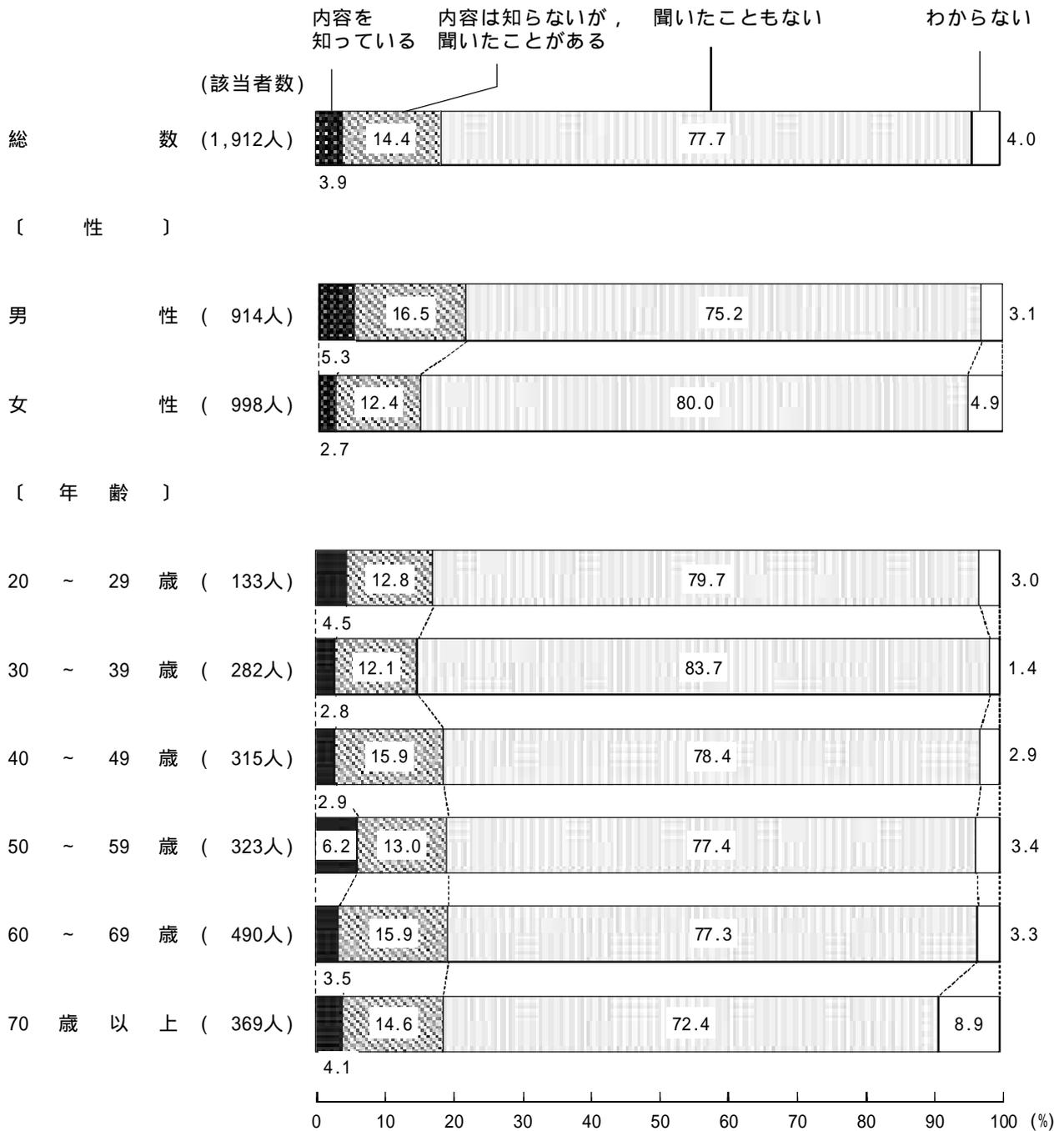
	平成 21 年 6 月	平成 24 年 6 月
・ 内容を知っている	3.6%	6.1% (増)
・ 内容は知らないが、聞いたことがある	16.2%	28.3% (増)
・ 聞いたこともない	77.8%	62.2% (減)



(4) 愛知目標の認知度

平成 24 年 6 月

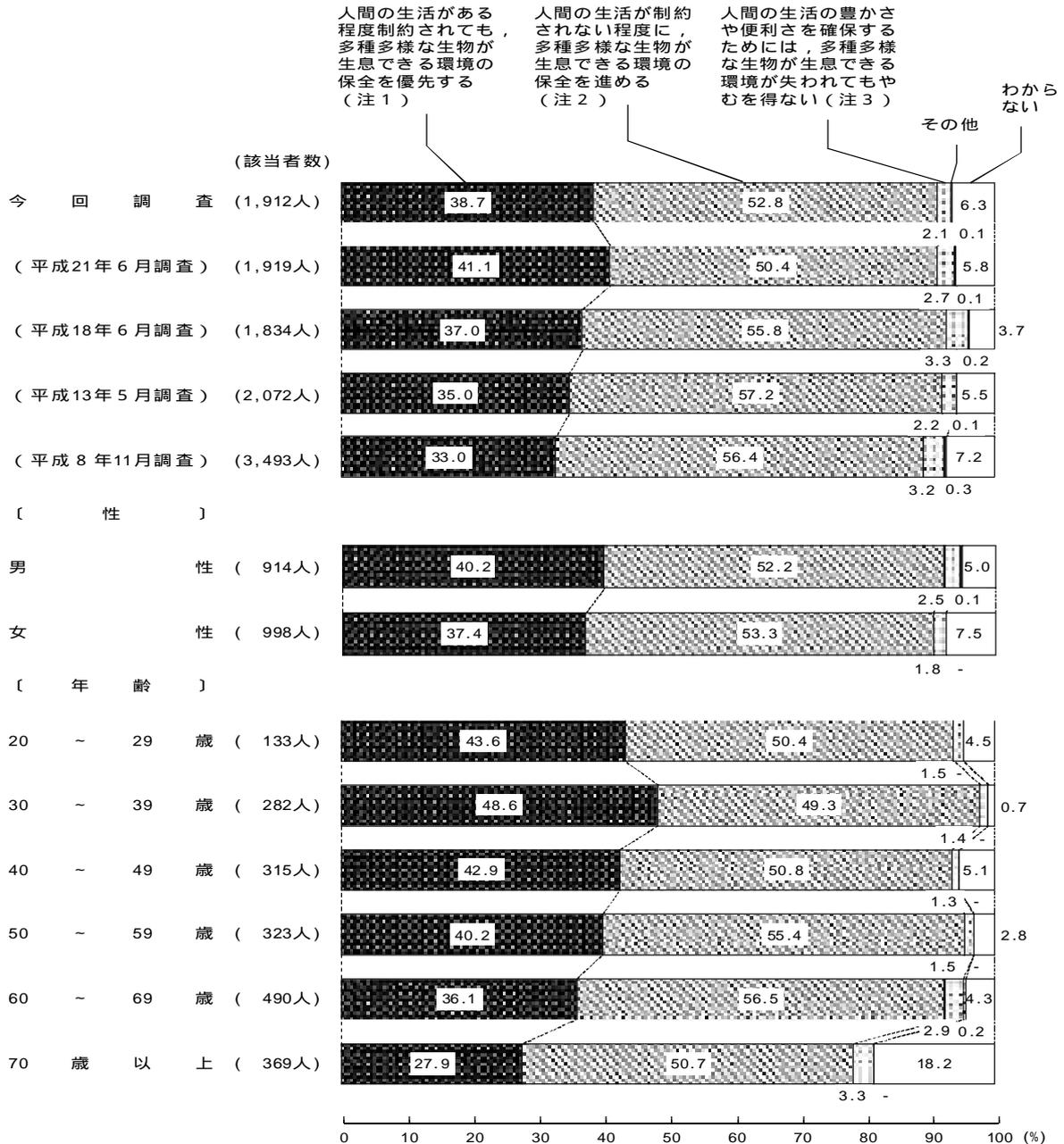
- ・ 内容を知っている 3.9%
- ・ 内容は知らないが、聞いたことがある 14.4%
- ・ 聞いたこともない 77.7%



(5) 生物多様性の保全のための取組に対する意識

平成 21 年 6 月 平成 24 年 6 月

・人間の生活がある程度制約されても、多種多様な生物が生息できる環境の保全を優先する	41.1%	38.7%
・人間の生活が制約されない程度に、多種多様な生物が生息できる環境の保全を進める	50.4%	52.8%
・人間の生活の豊かさや便利さを確保するためには、多種多様な生物が生息できる環境が失われてもやむを得ない	2.7%	2.1%



(注1) 平成8年11月調査では、「人間の生活がある程度制約されても、多種多様な生物が生息できる環境の保全を優先すべきである」となっている。

(注2) 平成8年11月調査では、「人間の生活が制約されない程度に、多種多様な生物が生息できる環境の保全を進めるべきである」となっている。

(注3) 平成13年5月調査までは、「生活の豊かさや便利さを確保するためには、多種多様な生物が生息できる環境が失われてもやむを得ない」となっている。

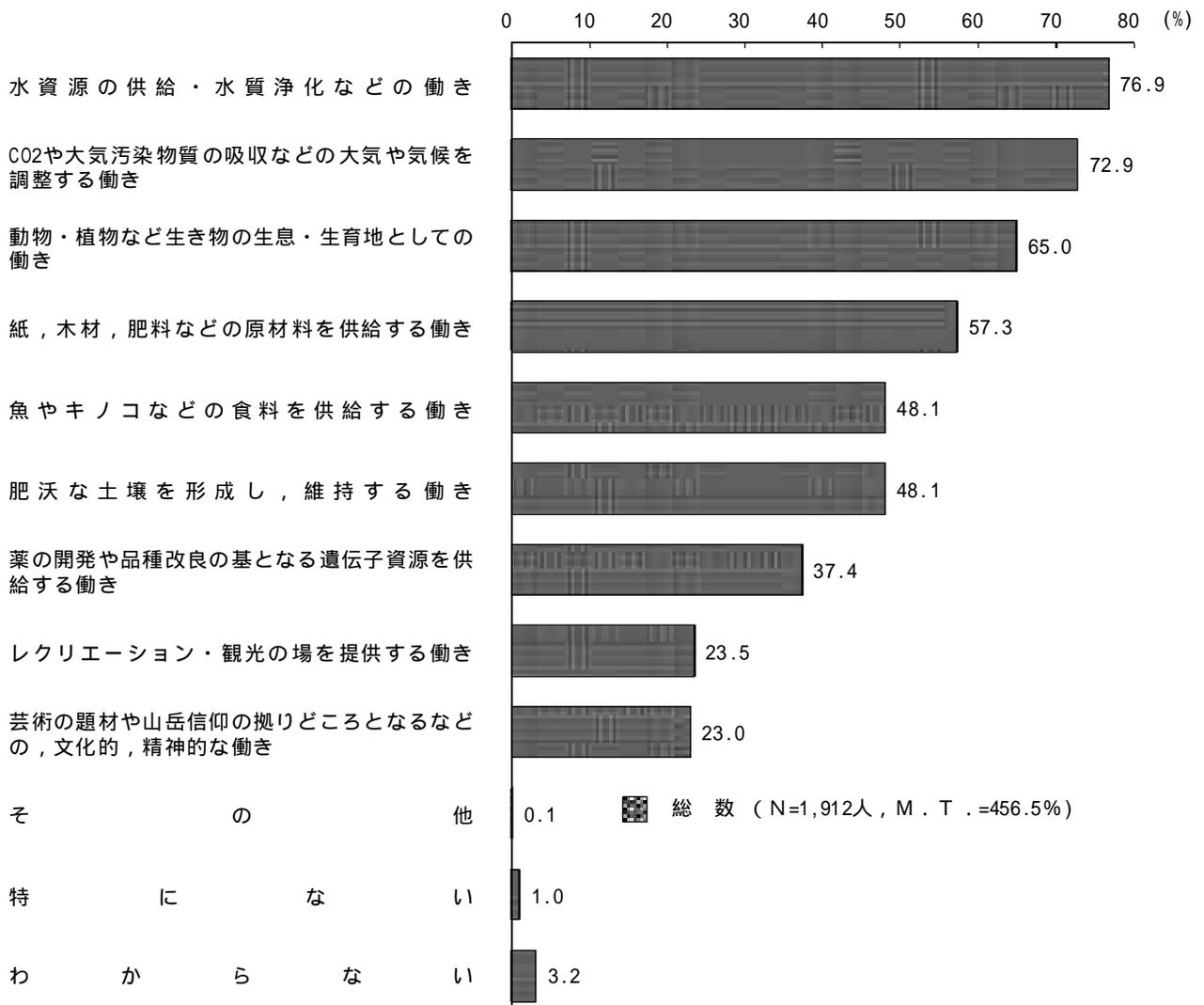
(6) 生態系サービスの価値に対する意識

(複数回答 , 上位 4 項目)

平成 24 年 6 月

- ・ 水資源の供給・水質の浄化などの働き 76.9%
- ・ CO2 や大気汚染物質の吸収などの大気や気候を調整する働き 72.9%
- ・ 動物・植物など生き物の生息・生育地としての働き 65.0%
- ・ 紙 , 木材 , 肥料などの原材料を供給する働き 57.3%

(複数回答)



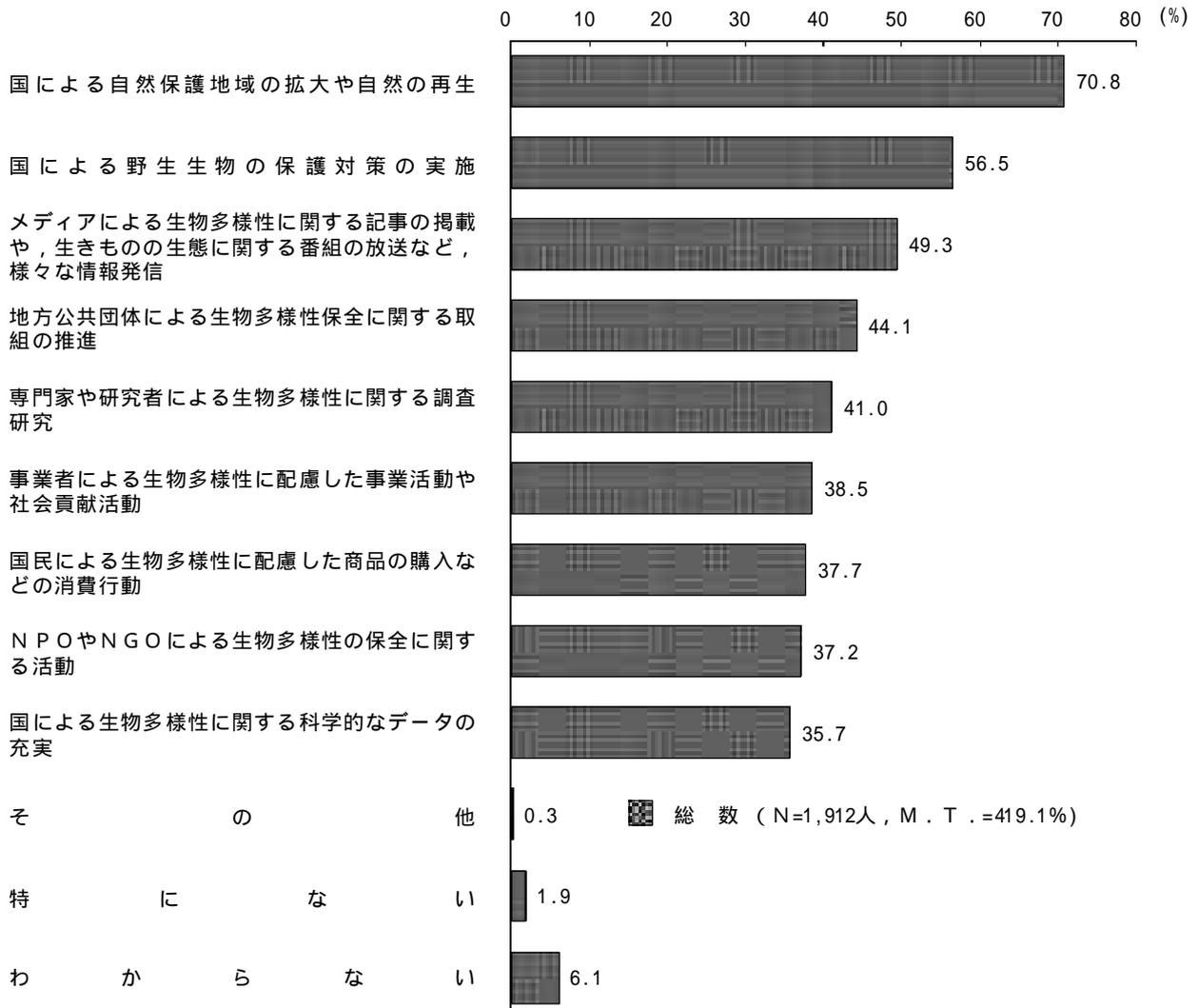
(7) 生物多様性の保全と多様なセクターの取組との関わり

(複数回答，上位 3 項目)

平成 24 年 6 月

- ・ 国による自然保護地域の拡大や自然の再生 70.8%
- ・ 国による野生生物の保護対策の実施 56.5%
- ・ メディアによる生物多様性に関する記事の掲載や，生きものの生態に関する番組の放送など，様々な情報発信 49.3%

(複数回答)

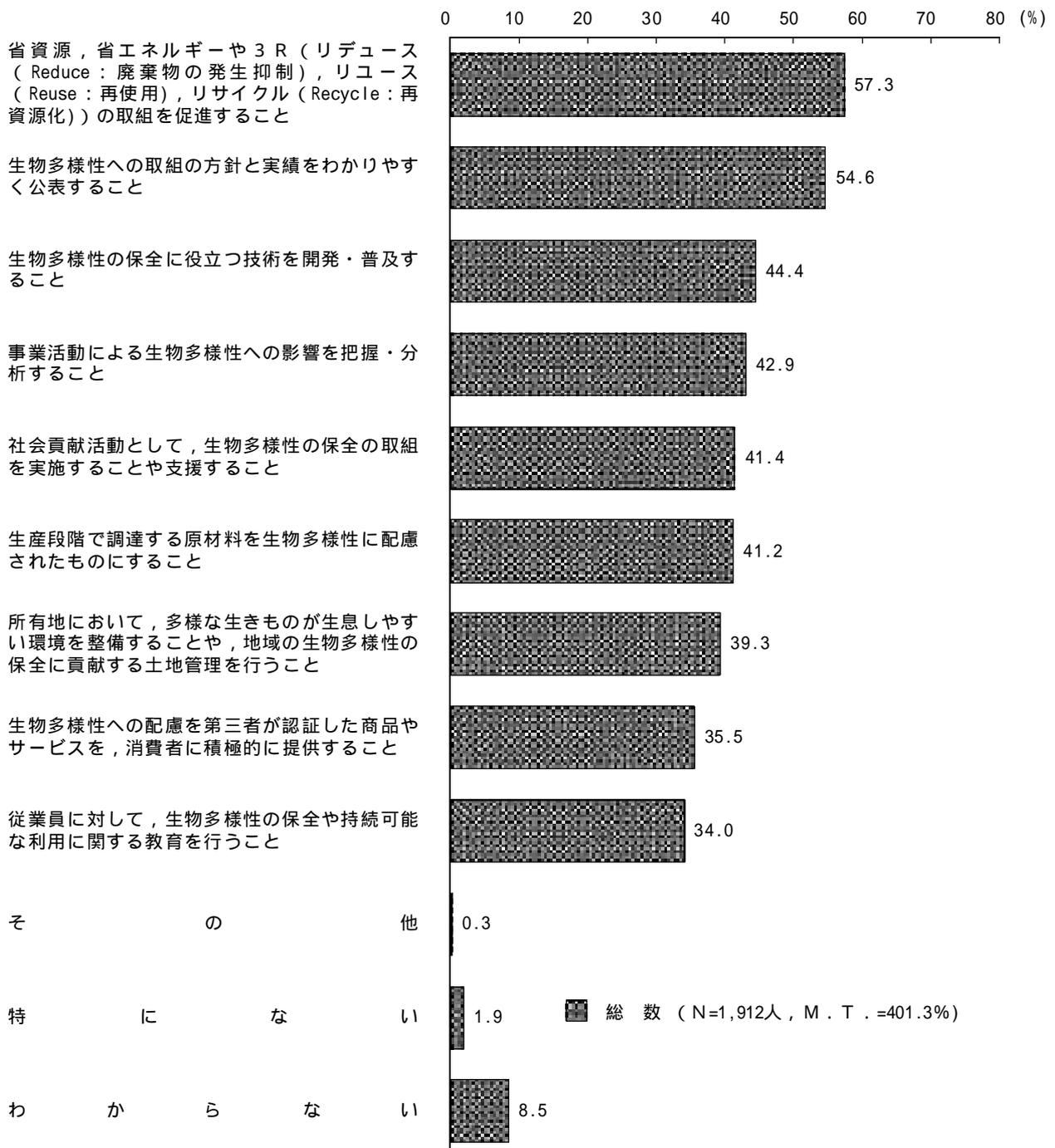


(8) 生物多様性の保全と事業活動との関わり

(複数回答，上位 2 項目)
平成 24 年 6 月

- ・ 省資源，省エネルギーや 3 R (リデュース (Reduce: 廃棄物の発生抑制)，リユース (Reuse: 再使用)，リサイクル (Recycle: 再資源化)) の取組を促進すること 57.3%
- ・ 生物多様性への取組の方針と実績をわかりやすく公表すること 54.6%

(複数回答)



(9) 生物多様性に配慮した生活のための今後の取組

(複数回答，上位 4 項目)
平成 21 年 6 月 平成 24 年 6 月

・節電や適切な冷暖房温度の設定など地球温暖化対策に取り組む	63.2%	71.9% (増)
・旬のもの，地のものを選んで購入する	49.7%	57.7% (増)
・生きものを最後まで責任を持って育てる	37.8%	54.3% (増)
・環境に配慮した商品を優先的に購入する	43.1%	47.4% (増)

